「ステップバック」

松馬羊志

【登場人物表】

斉藤こずえ（１７）　女子バスケ部キャプテン

斉藤美鈴（１５）　こずえの妹

雨宮英二（１７）　男子バスケ部キャプテン

○体育館

バスケの練習試合が行われている。

コートでプレイする美鈴（１５）。

その動きは他を圧倒し誰も追随出来ない。

ベンチで声を出すこずえ（１７）。

タイムアウトの笛。

ベンチに集まる選手達。

監督がゲキを飛ばす。

美鈴「タオル」

こずえ「……」

美鈴「お姉ちゃん、タオル！」

こずえ「あ、ごめん」

こずえから奪うようにタオルを受け取る美鈴。

笛が鳴り、コートに散らばる選手達。

監督「高校から始めたとは思えんな。お前の妹は」

こずえ「……」

相手の選手達を抜き去っていく美鈴。

その様子をベンチでじっと見つめるこずえ。

×　×　×

試合が終わり、監督の周りに集まる選手達。

監督「今日は良くやった。次は夏のインターハイだ。３年は最後のチャンスになるが、俺はそんな事関係なく実力がある奴をレギュラーにするつもりだ。キャプテンだって関係ないからな、こずえ」

こずえ「はい！」

○体育館・外観（夕）

日が沈み欠けている。

○同・中（夕）

黙々と一人、シュート練習をするこずえ。

美鈴が入ってきて。

美鈴「お姉ちゃん。まだやってるの？」

こずえ「うん」
美鈴「お腹空いたなぁ」
こずえ「うん」
美鈴「先帰っちゃうよ」
こずえ「うん」
と、拗ねて帰っていく美鈴。
練習を続けるこずえ。

○高校・こずえの教室
休み時間。生徒達が談笑している。
自席にこずえがいる。
男子A「昨日見たか？女子バスケ部の試合」
男子B「美鈴ちゃん、可愛かったな」
男子C「あの美貌でバスケも上手いって最強じゃねぇ？」
男子A「今年のインターハイはアイドルが生まれるな」
男子B「うちらの美鈴ちゃんが遠い存在に」
男子、こずえに寄って来て。
男子A「なぁ、斉藤。お前の妹、紹介しろよ」

こずえ「は？間違ってもあんたにだけは紹介しねぇーわ」

こずえ、席を立ち教室を出て行く。

男子Ｂ「姉ちゃんは、なんであんな愛嬌が無いかね」

こずえ、自分の上靴を男子Ｂ（吉田）に投げる。

こずえ「殺すぞ！吉田！」

○体育館

女子バスケ部、コート周辺をランニングしている。

最後尾で、だらだら走る美鈴。

その様子を見てゲキを飛ばすこずえ。

こずえ「一年、ちゃんと声出して！」

走り終わる。

こずえ「５分休憩。その後パス練ねー」

英二（１７）がこずえに声をかける

英二「お疲れ」

こずえ「あ、英二君」

英二「どう、そっち？」
こずえ「うん。まあまあかな」
英二「美鈴ちゃんも頑張ってる？」
こずえ「あ……うん」
英二「うちらも最後だから頑張らないとな」
その様子を遠くから見つめる美鈴。

○こずえの家・リビング（夜）
父・母がいる。
テーブルの上にはラップを被った夕飯。
こずえ、帰ってくる。
こずえ「ただいま」
父「おかえり。遅かったな」
こずえ「美鈴は？」
父「風呂」
母「さっさと食べちゃって片付かないから」
こずえ「うん」
父「どうなんだ？受験の方は」
こずえ「今はそれどころじゃないから」
父「国立にするんだろ？」

こずえ「インターハイ終わってからだって」
父「お前、試合出ないんだろ？美鈴に任せておけばいいじゃないか」
こずえ「はあ？」
父「何も姉ちゃんが妹の邪魔しなくったって」
こずえ「邪魔って」
父「昔から運動は美鈴の方がいいんだから、お前がサポートしてやらないでどうする？」
こずえ、無視して食事をする。

○公園・バスケットコート（夜）
一人でシュート練習をしているこずえ。
美鈴がやってくる。
美鈴「練習好きだねぇ」
こずえ「何？」
美鈴、アイスの入ったビニールを見せる。
美鈴「英二先輩ってかっこいいよね」
こずえ「？」
美鈴「バスケも上手いし、勉強も出来るし」

こずえ「何？」
美鈴「別にー」
こずえ「何なの？急にバスケだって始めて」
美玲「バスケしたいなって思ったら先にお姉ちゃんがしてただけでしょ？」
こずえ「だからって同じポジションを選ぶ事ないじゃない」
美玲、こずえからボールを奪う。
こずえ「あ」
美鈴、ドリブルしてゴールを目指す。
こずえ、ディフェンスに入る。
美玲「嫉妬？」
こずえ「何で私が！」
美鈴、フェイントをかける。
こずえ、ついて行けず転ぶ。
美玲、そのままレイアップシュート。
美鈴「諦めたら？柔道の時みたいにさ」
美鈴、去っていく。
こずえ、息が上がって立ち上がれない。

○体育館（夕）

一人シュート練習をしているこずえ。

ふと外を見る。

美鈴と英二が楽しそうに会話をしながら帰って行くのが見える。

○体育館

監督の周りに選手が集まっている。

監督「今日の紅白戦でレギュラーを決める。

そのつもりで挑めよ」

選手達「はい！」

選手達がコートに散らばる。

美鈴とこずえは敵同士。

こずえ「みんな、声出して行くよ！」

チームメイト「はい！」

ホイッスルが鳴り、試合が始まる。

×　×　×

美鈴がボールを持つ。

ディフェンスに入るこずえ。

美鈴、フェイントを入れ、こずえを抜

き去る。

×　×　×

こずえにボールが渡る。

こずえ、うまく仲間を使いパスを繋ぐ。

×　×　×

美鈴がパスを出す。

そのボールをこずえが、ブロック。

溢れるボール。

こずえ、美鈴、ダイブしてボールを追う。

×　×　×

試合は、平行線のまま終盤へ。

こずえにボールが渡る。

美鈴が、ディフェンスにつく。

こずえM「昔から、妹が憎かった」

こずえ、フェイントを入れるがついて来る美玲。

こずえM「何でも私の真似をして、私より上手くなる。そして全部奪っていく」

こずえ、振り切ろうとするが、美鈴を

振り切れない。

美玲M「昔から、姉が嫌いだった」

こずえ、パスを出そうとするが、美鈴がカット。溢れるボール。

美玲M「いつも必死で気持ち悪かった」

こずえM「だから私は、好きなものを守ろうと必死になるしかなかった」

こずえ、ボールを掴む。

オフェンスにつく美玲。

美玲M「姉の周りにはいつも人が集まってくる」

真剣な表情の二人。

こずえM「でも彼女が妹で良かった」

こずえ、3ポイントシュートの構え。

ジャンプして遮ろうとする美鈴。

美玲M「だから、全て奪いたかった」

こずえM「彼女のおかげで、私はしがみ付ける。絶対渡しちゃいけない」

こずえ、ステップバックしてシュートを放つ。

美玲、ボールに届かない。

宙を舞うボール。

そのままボールはバスケットリングに吸い込まれる。

ホイッスルが鳴る。

美玲M「私はお姉ちゃんみたいになりたかった」

ガッツポーズをするこずえ。

＜終わり＞